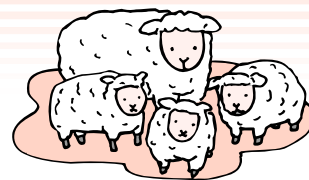


ひつじ

未年の話題



平成27年の干支

- 平成27年の干支は「乙未」(きのと・ひつじ)です。
- 「未」という漢字は、「木」と上の「一」とからなっており、「一」は木の上にさらに小さな小枝が加えられて、木の枝葉が繁茂している形を表した象形文字です。
- また、「未」という漢字には、枝葉が茂りすぎると日の光が遮られ、風通しも悪くなり虫が付き易く、木が弱って成長が止まってしまう梢枯れ現象を避けるため、思い切って枝葉をはらい落とすという意味もあります。
- 未年は曖昧や暗いことを排して明るくすること、つまり後暗い行動を慎み、公明正大にふるまうべき年と言えるでしょう。
- 未年生まれの性格
長所 人に好かれる。気が従順。品位がある。一芸一能に秀でる。執着心が強い。おとなしい。親切丁寧。同情の念厚く正直。
短所 交際べたである。自己の意思を相手に十分伝えきれない。現在を悲観し、厭世的。女性的。小心。取り越し苦労をする。進取の気に欠ける。
- 未は十二支の八番目で、方角は西南（真南から西へ三十度の方向）。時刻では午後二時（日が傾く辻、すなわち日辻）、または午後一時から三時までの間をさす。旧暦では六月に当たる。因みに、来年の「恵方」（その年の福の神「歳徳神」が降臨する方角）は、西南西です。

未にちなんだ故事・ことわざ

羊の番に狼

極めて危険なこと。また、極めて残酷なことのとたとえ。

羊をして狼に狩たらしむ

弱いものを強兵の大將にすえることのとたとえ。「史記」の故事による。

羊を以て牛に代える

小さな物を大きな物の代わりにすること。また、いくらかは違うが、本質には変わりがなく、大体において同じだということ。「孟子」の故事による。

羊の歩み隙の駒

時が過ぎていくこと。羊の歩みは光陰・歳月の意があり、屠所に近づく羊の足どりと、死がだんだん近づくことのとたとえ。「源氏物語」にある言葉。

啼く羊は餌を食べそこなう

食卓で多弁のひとや、仕事をせずにおしゃべりをする人のたとえ。

羊飼いのいない羊

指導者を失った民衆のこと。

未年の主な出来事

1943年（昭和18年）

神宮外苑競技場で七万人の出陣学徒壮行会挙行（10月21日）。鳥取大地震。

1955年（昭和30年）

神武景気。トランジスタラジオ、電気釜発売。第1回東京国際見本市開催。新潟大火。砂川闘争。

1967年（昭和42年）

羽田闘争。吉田茂国葬。釜ヶ崎暴動。山谷暴動。

1979年（昭和54年）

木曾御嶽山有史以来の初噴火。東名日本坂トンネル事故。国公立大学初の共通一次試験。銀行強盗多発。第二次石油ショック。

1991年（平成3年）

雲仙・普賢岳噴火で土石流発生、住民避難。皇太子徳仁親王、立太子の礼。信楽高原鉄道衝突事故。湾岸戦争勃発。

2003年（平成15年）

さいたま市が政令指定都市に移行。オレオレ詐欺が横行。六本木ヒルズがグランドオープン。朝青龍が第68代横綱に昇進。鳥インフルエンザ感染発生。地上デジタル放送が東京、大阪、名古屋で開始。

参考 戸出 武「続十二支のE話」他